

社会福祉法人 櫻心会
おひさまりりー保育園

新型コロナウイルスが猛威を振るい続け、未だ終息の見通しが立たない中でも、毎日の保育をどう進めていくか感染対策も含めて、保育施設の悩みはつきない一年となった。コロナ禍であったため、職員の研修においては、キャリアアップ研修を含め殆どリモート方式で参加した。専門的な知識・技術習得の必要性について学ぶことができた。また、2月からスタートした処遇改善臨時特例事業により保育士の処遇が良くなったことに感謝したい。コロナ禍のため、保護者を招いての行事はなかなか出来なかったが、毎日の保育においては、職員の工夫により園児にとって充実した毎日が送れたように思う。

1. 家庭や地域社会との連携について

- (1) 保育園と家庭との連携を密にするため「クラスだより」・「園だより」を毎月発行した。園からのお便りは毎日の保育の様子や献立をアプリで配信することで、保育に対する各家庭の理解と協力を求めた。子どもたちの様子を写し可視化していく事で各家庭から好評を頂いた。
- (2) プランターに花を植え、手紙を添えて近くの老人施設にプレゼントした。とても喜んでもらった。
- (3) コロナ禍のため感染予防を十分に行い、運動会・発表会は保護者や祖父母を招いて行った。

2. 保育活動について

- (1) 働く母親が増加する中、家庭での親子の触れ合いが少ない今、保育士はそれぞれの子どもとのスキンシップに心がけ児童の情緒の安定を図り、明るく思いやりのある元気な子を目標に努力した。
- (2) 近くの畑を借り、菜園活動に力を入れた。収穫した野菜をクッキング保育において自分達で調理し、食べることで食育の大切さを教えた。
- (3) 体操教室を月3回（火曜日）行った。幼児期は一番神経系が発達する時期だと言われている。リズム運動で体を柔軟にし、多種多様の運動スポーツがライフスタイルの一部となり、好きになり、自信をつけ、心と体を鍛え健康な子どもに育つことを願って行った。
- (4) 英語教室を月3回（木曜日）行った。3歳までは、どんな音でも聞いたままにオウム返しできる。また、あらゆる言語の習得が可能である。英語を言葉で

はなく音として聞く事。乳幼児英語教育の経験豊富なカヨコ先生と本物の英語で触れ合う時間を大切にしたい。

- (5) 和太鼓を購入し、太鼓教室を月3回（金曜日）行った。和太鼓に触れることで日本古来の文化を伝承し、その響きやリズムやいろいろな打ち振りの動きを楽しみながら集中力を養った。運動会や発表会で披露することが出来とても喜んで貰えた。
- (6) 保育参観はコロナウイルス感染症拡大予防のため中止した。

3. 給食について

子どもの発育に必要な栄養のバランス及び栄養量を考慮し、献立を作成した。また、子ども達が喜んで食べるように色彩感あふれる給食を出した。毎日の昼食をアプリ配信したので、とても保護者に喜んで貰えた。

4. 職員研修について

コロナ感染拡大予防のためリモート研修会に多く参加し、職員の資質の向上に努めた。また、職員会議において出張報告を行った。

5. 保険、安全等について

- (1) 嘱託医に依頼して、園児に7月と11月に健康診断検診を6月に歯科検診を実施し治療の必要な子は治療してもらった。未受診の子どもについても後日病院に連れて行き全園児についても健康状態の把握を行った。
- (2) 職員の健康診断も全職員受診した。
- (3) 保育環境の整備については、いつも園庭の花を絶やさないように努めた。

6. 地域活動

- (1) 地域のボランティア活動に職員が参加し近くの道の清掃活動を行った。